

PRIMERGY LX1430 M1**ご使用上の留意・注意事項**

PRIMERGY LX1430 M1 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

【留意事項】**1. BIOS モードについて**

本製品の BIOS のデフォルト設定は UEFI モード設定です。
UEFI モード(デフォルト設定)

Boot	
設定項目:	Boot Mode Select
設定値:	UEFI

2. Legacy モードでの PXE ブートについて

本製品を Legacy モードに設定して使用する場合、PXE ブートはできません。
PXE ブートを使用する際は UEFI モード(出荷時設定)でご使用ください。

3. SEL に記録されないエラーについて

本製品は装置電源が投入された状態で AC 入力 Lost し、装置電源が切断された場合、SEL にエラーは残りません。

4. 非サポートの機能について

本製品では、次の機能をサポートしておりません。

- ・システム統合管理ツール群 ServerView Suite
- ・障害発生時のリモート通報サービス

(ハードウェアの障害予兆／異常情報を弊社 One-stop Solution Center に自動通報する機能)

5. VMware ESXi 使用時の機能 Disable 設定について

本製品はシステム統合管理ツール群 ServerView Suite が非サポートとなります。そのため、VMware ESXi を使用される際は、OS インストール後に次の手順にて svscimprovider の機能を Disable にしていただく必要があります。

1. ESXi ホストのコンソールにログインするか、SSH で ESXi ホストに root で接続します。
2. コンソールから、次のコマンドを実行し無効化設定を行います。

```
# esxcli system wbem provider set -e 0 -n=vmw_svscimprovider
```

3. コンソールから、次のコマンドを実行し cim の再起動を行います。

```
# /etc/init.d/sfcbd-watchdog stop
```

```
# /etc/init.d/sfcbd-watchdog start
```

4. 次のコマンドを実行し、無効化されていることを確認します。

```
# esxcli system wbem provider list
```

無効化されている場合、vmw_svscimprovider(ESXi CIM Provider)の Enabled、Loaded の値が false になります。

実行例:

Name	Enabled	Loaded
-----	-----	-----
Fujitsu_raid0	true	true
sfcb_base	true	true
vmw_base	true	true
vmw_brcm-cim-provider	true	true
vmw_emulex-cim-provider	true	true
vmw_hdr	true	true
vmw_hhrcwrapper	true	true
vmw_iodmProvider	true	true
vmw_kmodule	true	true
vmw_Isipprovider	true	true
vmw_omc	true	true
vmw_pci	true	true
vmw_qlogic-adapter	true	true
vmw_svscimprovider	false	false

6. 内蔵 SSD の寿命確認方法について

本製品に搭載する内蔵 SSD は、書き込み寿命を有する NAND フラッシュを含んだ「有寿命部品」となります。

詳細情報は、公開 Web (<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/support/parts/#parts2>)の

「LX1430 M1 用 内蔵 2.5 インチ SATA/PCIe SSD 書き込み保証値と書き込みデータ量の確認方法」をご参照ください。

7. 保守作業時のお願いについて

本製品では、次の前提条件を基に保守作業を実施いたしますので、保守作業を実施する場合に備えて対応をお願いします。

- ・Mother Board Unit(MBU)を保守交換した場合、BIOS/BMC FW の版数は最新版になっていない可能性があります。最新 BIOS/BMC FW のアップデートはお客様ご自身で実施する必要があります。

最新 BIOS/BMC FW は公開 Web (<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>)からダウンロードしてご使用ください。

- ・MBU を保守交換した場合および BIOS/BMC FW をアップデートした場合、BIOS 設定項目/BMC 設定項目は出荷時設定に戻ります。お客様が変更・設定した項目は、環境設定シートに設定情報を記録して保管し、MBU 交換時、BIOS/BMC FW アップデート時に環境設定シートの設定情報に再設定してください。

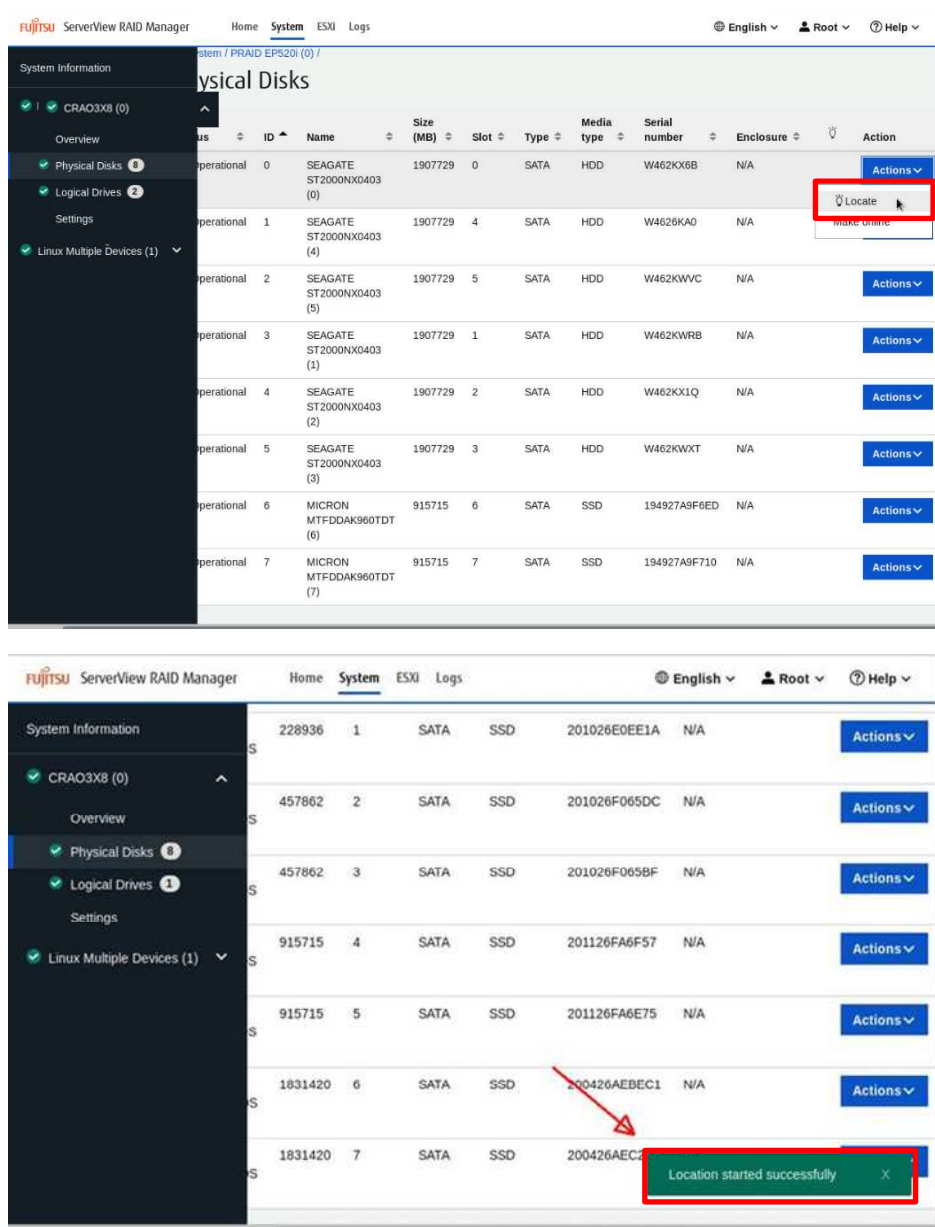
環境設定シートは公開 Web(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>)からダウンロードしてご使用ください。

- ・保守作業にコンソール(LCD、USB キーボード、USB マウス)が必要になる場合があります。保守員からコンソール借用のお願いをする場合がありますので、本装置に接続可能なコンソールをあらかじめ準備していただくようお願いします。

8. SAS アレイコントローラカード搭載時の Locate Drive 機能について

SAS アレイコントローラカード(PY-SR3FAU)を搭載している場合、アレイコントローラ管理ツール ServerView RAID Manager の Locate Drive 機能を使用することはできません。

下図のように[Locate]をクリックすると、「Location started successfully」のメッセージが表示されますが、ハードディスクのランプは点灯しません。

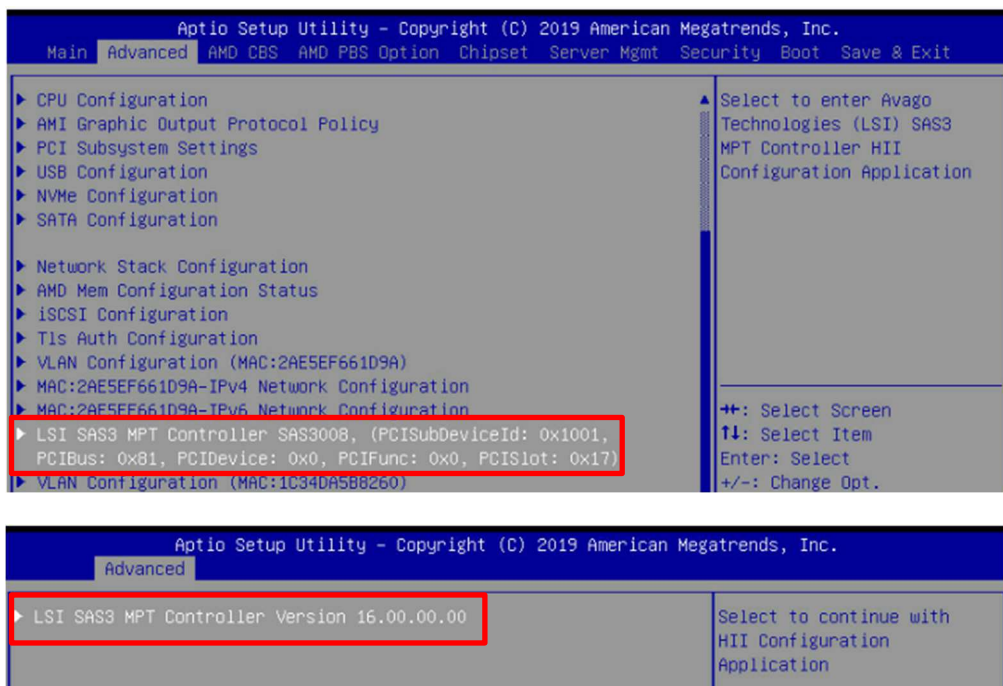


Location の確認を行う場合は、下記手順で行います。

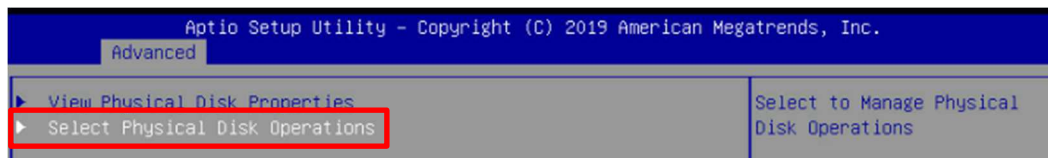
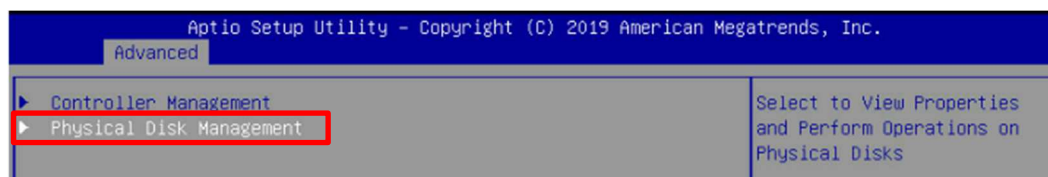
1. BIOS POST 画面で[Del]キーを押し、BIOS Setup Menu に入ります。



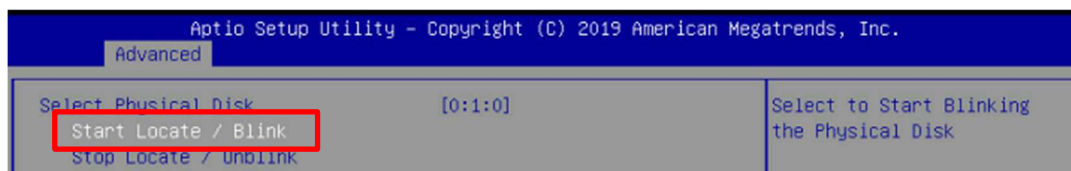
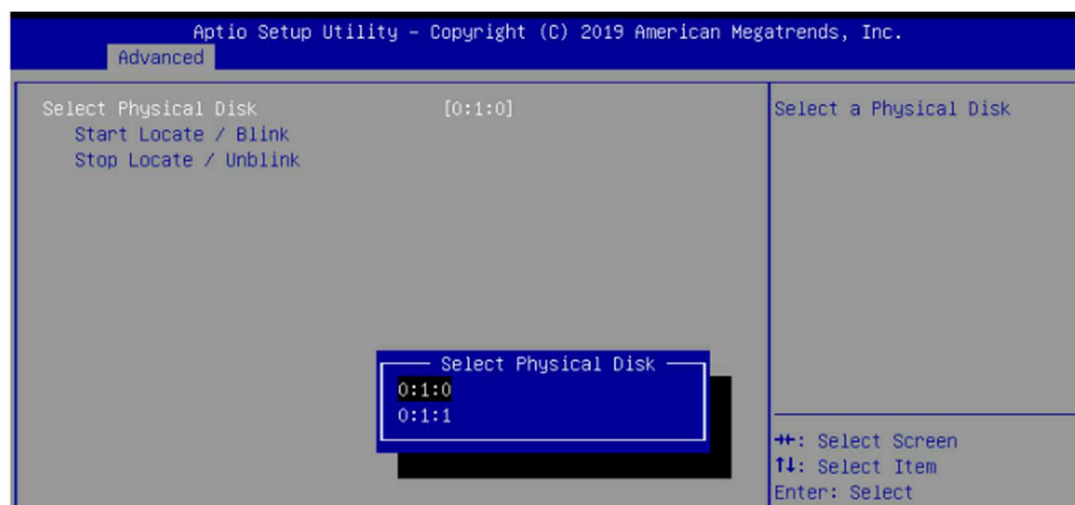
2. [Advanced]メニューから、[LSI SAS3 MPT Controller SAS3008]サブメニューを選択し、[LSI SAS3 MPT Controller Version 16.00.00.00]を選択します。



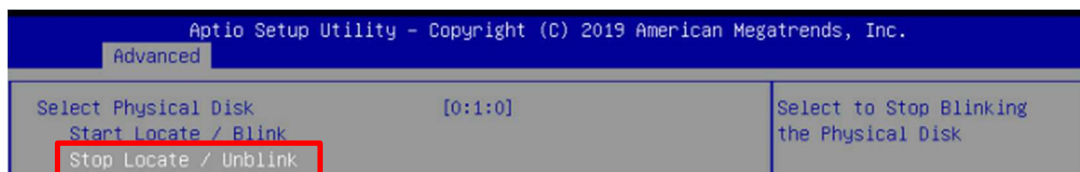
3. [Physical Disk Management]>[Select Physical Disk Operations]を選択します。



4. [Select Physical Disk]でランプを点灯させたい対象のドライブを選択し、[Start Locate / Blink]を選択します。



5. ランプの点灯を止める場合は、[Stop Locate / Unblink]を選択します。



9. EPYC 7002 シリーズ CPU が搭載されている場合、サーバの連続稼働時間が約 1,044 日 (約 2 年 10 カ月) に達した時点で、サーバ停止に至る事象について

BIOS 設定の CPU 省電力モードが有効な状態(Global C-State Control :Auto)において、サーバの連続稼働時間が約 1044 日(約 2 年 10 カ月)に達すると、CPU が省電力モードに陥り復帰できず、サーバが停止します。

対象 CPU 型名 :PYBCPL1A*, PY-CPL1A* (*: 数字またはアルファベット 1 文字が入ります)

以下の回避策1または回避策 2 の適用をご検討ください。

なお、本事象発生時には、「本事象発生時の復旧方法」の項目をご参照ください。

回避策 1. CPU の省電力動作モードの無効化(BIOS 設定値の変更及びカーネルパラメータ追記)

本作業には、サーバのリブートが必要となります。

また本設定変更により CPU の省電力動作モードが無効化されるため、低負荷状態において製品の消費電力が増加する場合があります。

手順 1. BIOS 設定値の変更手順

1. サーバをリブートし、BIOS セットアップ画面を開きます。
2. "Global C-State Control" の設定を確認し、"Disabled" に変更します。
3. BIOS の設定保存後、サーバをリブートし、設定を反映させます。

※BIOS 設定値を変更する際は、対象製品の「環境設定シート」をダウンロードしてご利用ください。「環境設定シート」は、対象製品トップページから「マニュアル」を選択したページからダウンロードできます。
既に BIOS 設定値を記録している場合は、今回の変更に合わせて記録内容を更新してください

※故障等によりシステムボードを交換した場合は、BIOS 設定値の変更内容が引き継がれないため、ご使用前に再度 BIOS 設定値の変更が必要となります。

手順 2. カーネルパラメータの追記手順

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要となります。

Windows、VMware の場合は以下の対応は不要です。

Red Hat Enterprise Linux 8, 9 の場合

1. /etc/default/grub を編集し、GRUB_CMDLINE_LINUX 行 に以下を追記します。

“processor.max_cstate=0”

2. 以下コマンドを実行し、設定値を反映します。

2.1 Red Hat Enterprise Linux 8 の場合

・BIOS モードの場合

grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg

- ・UEFI モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg
```

2.2 Red Hat Enterprise Linux 9 の場合

- ・BIOS モード/UEFI モード共通

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

3. サーバをリブートし、反映させます。

SUSE Enterprise Server 15 の場合

1. /etc/default/grub を編集し、GRUB_CMDLINE_LINUX 行に以下を追記します。

```
“processor.max_cstate=0”
```

2. 以下コマンドを実行し、設定値を反映します。

- ・BIOS モード/UEFI モード

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

3. サーバをリブートし、反映させます。

回避策 2. 定期的なサーバのリブート

BIOS セットアップ画面にて“Global C-State Control”の設定変更をしない場合は、サーバの連続稼働時間が約 1,044 日に達する前に、サーバのリブートを実施して下さい。

なおサーバのリブート後も、再度サーバの連続稼働時間が約 1,044 日に達する前に、定期的にサーバのリブートが必要になります。

連続稼働時間は、OS コマンド等からご確認ください。

※連続稼働時間の確認方法

- ・Linux

uptime コマンドを利用して確認ください。

- ・Windows

タスクマネージャーで「パフォーマンス」タブの「稼働時間」を確認ください。

- ・VMware

uptime コマンドを利用して確認ください。

本事象発生時の復旧方法

本事象が発生しサーバが停止した場合は、以下のいずれかの方法を実施して、サーバを強制的にリブートしてください。

1. BMC の機能による強制リブート

- ① BMC Web インターフェースに管理者権限を持ったユーザでログインします。
- ② Power Control メニュー > Power Cycle ボタンを選択 > Perform Action をクリック

2. 電源ボタンによる強制リブート

- ① 電源ボタンを長押し(5 秒以上)して強制的に電源を切ります。

- ② 電源ボタンを押して電源を投入し、サーバを起動してください。

－ 以上 －